



ご紹介

発明の溪谷

凍てつく大地が形作った高精度の発祥の地

概要：

- ・ **発明の溪谷：**グランドメゾンが掲げる 2026 年の年間テーマ。ジュウ溪谷におけるウォッチメイキングの誕生を伝える物語
- ・ **土地に形作られたマニファクチュール：**ジャガー・ルクルトの創意工夫の精神は、過酷な環境の中で形作られました。そこでは、立ち直る力、自立心、そして独創性が、現代の高級時計づくりの礎を築きました
- ・ **あくなき精度への追求：**19 世紀のクロノメーターやコンクールで優勝したトゥールビヨンから、2026 年のマスター・コントロール・クロノメーターやハイブリス・インベンティバの作品に至るまで

すべての伝説には発祥の地があります。ジャガー・ルクルトの歴史は、スイス・ジュラ山脈の高地にひっそりと佇む溪谷から始まりました。そこは 16 世紀、宗教迫害から逃れたユグノー教徒の難民たちが故国を離れて定住した場所です。この安息の地は新たな課題を突きつけました。それは、美しくも過酷な土地で生きていくこと。鬱蒼とした森と厳しい寒さの冬を過ごすには、立ち直る力と決意、そして機転が求められました。幾世代にもわたり、機転は独創性や創意工夫へと磨き上げられ、その精神は、1833 年の時計づくり工房ルクルトの創業へとつながっていきます。

その後、絶え間ない発明が続き、新たな生産ツール、初の統合マニファクチュールの創設、革新的な製造プロセス、そして前例のない複雑機構が誕生しました。この勢いは現在まで続き、430 件以上の特許がその事実を認めています。今日、ジャガー・ルクルトは真のマニファクチュール工房として、82 のアトリエ、108 の時計づくりの技術、そして 69 の象徴的なノウハウをひとつ屋根の下に集結させています。

2026 年のテーマ「発明の溪谷」において、ジャガー・ルクルトは土地が形作った遺産を称えます。この稀有な環境では、風景と気候が人々の個性を育み、人々が生み出した発明が時計づくりの歴史の軌跡を形作っています。

I - 16 世紀～19 世紀：高精度ウォッチメイキングの起源

古代文明が最初の計時機器を発明して以来、時計づくりの歴史は常に高精度を追求する動きによって推進されてきました。そして 14 世紀半ばに最初の機械式時計が発明された後、精度への追求はさら



に加速しました。時間が経ち、時計製造技術が高度化するにつれ、ポケットに入れて持ち運べるほどの小型時計の開発が可能になりました。こうしたタイムピースの小型化に伴い、部品の成形および、ムーブメントの設計と組み立てにおいて、より一層の精度が求められました。そしてついにジュウ溪谷にて、アントワヌ・ルクルトは、この追求をかつて想像もできなかった高みへと導いていきます。

夏の農作業から冬の時計づくりへ

1559 PIERRE LECOULTRE SETTLEMENT <i>Pierre LeCoultre left Geneva for the Vallée de Joux, driven by an entrepreneurial spirit.</i>	1612 LE SENTIER IS ESTABLISHED <i>Pierre LeCoultre (son) built a chapel that established the village of Le Sentier.</i>	1823 PRODUCTION OF QUENCHED METAL <i>Antoine LeCoultre joined his father in the family's forge and started working with new alloys.</i>
---	---	---

1559 年、故国フランスでの迫害を逃れ、ピエール・ルクルトはジュウ溪谷にやって来ました。当時、溪谷は岩と森に覆われた荒れ地で、標高 1,000 メートルに位置し、山々に囲まれていました。ピエール・ルクルトは土地の権利を得て、森を切り開き、自宅と農場を作りました。1612 年、同じくピエールという名を持った息子が礼拝堂を建て、ル・サンティエ村が誕生しました。この地は今日に至るまでジャガー・ルクルトの本拠地であり続けています。

暖かい季節には、ジュウ溪谷の生活は農業によって形作られていました。肥沃な夏の牧草が家畜を支え、酪農業の中でも、特に牛乳とチーズの生産が地元世帯の主な収入源になりました。しかし、溪谷の孤立した環境と厳しい気候によって厳格な季節のリズムが刻まれていました。冬が訪れると、大雪と氷点下の気温によって酪農の仕事は中断させられ、農作業も数か月間できなくなったのです。自給自足せざるを得なくなった多くの農民は、山小屋に鍛冶場を設け、長い冬の間の副収入源を確立しました。必要が発明の母となり、鍛冶場は野原に取って代わりました。忍耐と粘り強さ、そして孤立した環境によって培われた精度と細部への細心の注意をもって、彼らは刃物やバックル、錠前、ハンドルといった小型で極めて精密な品物の製作を専門に行うようになりました。長い冬を利用して技術をさらに磨こうとする者たちは、当然のように時計づくりへと目を向けました。

ピエール・ルクルトがジュウ溪谷にやって来てから 10 世代後、アントワヌ・ルクルトは 16 歳の時に家族の小さな鍛冶場で父に加わりました。そこでは新たな合金を開発し、オルゴール用のピンと振動板を完成させました。1823 年、彼らは特別な鍛造（焼入れ）によるステンレススチールのカミソリを作り始め、続いて、同じ焼入れ方法を活かして時計づくり用のノミを設計しました。凍てつく冬の間、アントワヌ・ルクルトは時計づくりの技術を独学で学び始めました。

エタブリサージュから現代のマニュファクチュールへ

1830 THE PINION-CUTTING MACHINE <i>Invented by Antoine LeCoultre, enabling greater accuracy and series production.</i>	1833 WATCHMAKING ATELIER <i>Antoine LeCoultre transformed the family forge in Le Sentier into a watchmaking atelier.</i>	1866 FIRST INTEGRATED MANUFACTURE <i>Antoine LeCoultre and his son Élie united all the watchmaking crafts under one roof.</i>	1877 THE MANUFACTURE BECOMES LECOULTRE & CIE <i>Becoming known as 'The Watchmaker of Watchmakers'.</i>
--	--	---	--



時計づくりを独学で学ぶ傍ら、アントワヌ・ルクルトはすでに他の発明に忙しく取り組んでいました。1830 年までに、彼はステンレススチールからピニオンを切り出す機械を発明し、手作業で金属を削るという骨の折れる工程を不要なものにしました。この革新以前、ピニオンはステンレススチールを金型で引き抜いて製造されていましたが、アントワヌ・ルクルトがもたらした解決策により、ステンレススチールの個体から直接切削できるようになりました。この画期的な進歩は明確な利点をもたらしました。より高い品質、より優れた精度、そして大規模な生産においても一貫した再現性を実現しました。

1833 年、アントワヌ・ルクルトは、ル・サンティエにある家族経営の鍛冶場を時計づくりの工房に変え、自らの名を冠したタイムピースの製造を始めました。当時、時計づくりはエタブリサージュという原則に基づいていました。これは通常、所有者の農家の屋根裏にある小規模な独立工房のエコシステムであり、各工房は時計づくりの専門技術のひとつに特化していました。この制度により、それぞれの時計職人は自ら選んだ専門分野で卓越した技能を磨くことができましたが、完成品としての時計を製造する上では結局のところ非効率なシステムでした。ルクルトは様々な部品を異なる専門業者から調達していましたが、それは時間のかかる工程であり、標準化された測定基準がなかったため、すべての時計は定義上一点物でした。

精度にこだわるルクルトは、効率を高める可能性のある別の運営方法を考え始めました。そして、1866 年にアントワヌ・ルクルトと息子エリーは、すべてのウォッチメイキングの技術をひとつ屋根の下に集結させるという、時計づくりの様相を一変させるアイデアを実現しました。ジュウ溪谷に最初の本格的なマニュファクチュールを創業したことは、先見の明のある決断でした。効率性を高め、標準化を促し、またそれによって量産化を実現しただけでなく、「集団の知恵」を活用しました。時計職人の多様な技術と手法を結集することで、緊密かつ継続的な意見交換が促進され、時計づくりに内在する課題への新たな解決策を開発する上で、ますます高い創造性が喚起されました。ジュウ溪谷最大のウォッチメイキング企業として、ルクルト社はグランドメゾンとして知られるようになりました。

比類なき遺産

1844 THE MILLIONOMETRE Invented by Antoine LeCoultre, marking the birth of fine watchmaking.	1850 THE ROUNDING-UP TOOL Invented by Antoine LeCoultre, increasing the quality of gear trains.	1851 INTERNATIONAL RECOGNITION Antoine LeCoultre won the Gold medal at the World's Fair in London, the Great Exhibition.	1860 THE PLATE-CUTTING TOOL Invented by Antoine LeCoultre, marking the milestone hour that anchors every calibre.	1860s CALIBRES WITH COMPLICATIONS LeCoultre's inventions made it possible to develop watches of greater complexity.
--	---	--	---	---

タイムピースが小さくなるにつれ、より精密な測定が求められるようになったものの、小型化には限界がありました。この事実が、アントワヌ・ルクルトの次なる画期的な発明であるミリオノメーターの誕生を促しました。1844 年の発表当時は、ミクロン単位の測定ができる世界初の測定器でした。この機器により、それまでにない精度で部品を測定することが可能になりました。

アントワヌ・ルクルトは、それまで以上に小さな単位でより高精度に部品を測定、加工できる、精度良く調整された切削機やプレス機の開発を続けました。これには 1850 年、歯車の品質を大幅に



向上させたホイール成形用のラウンドアップ工具、また 1860 年、あらゆるキャリバーの基盤となる極めて重要なベースのより精密な加工を可能にしたプレート切削工具などが含まれていました。

1851 年、イギリスはロンドンで史上初の万国博覧会を開催。アントワーヌ・ルクルトは数点の作品を展示し、金メダルを獲得しました。特に部品の互換性の分野で先駆的な役割を果たしたことが評価されました。それは、数多くの革新を促す原動力となった精度へのこだわりの賜物でした。

計時の精度を損なわずに部品の小型化を可能にしたルクルトの発明は、より小型で複雑な時計の開発を可能にしました。これにより、カレンダー機能、ムーンフェイズ表示、チャイム機構、クロノグラフなどの複雑機構が開発されることになりました。1860 年から 1900 年の間に、マニユファクチュールは 350 種類以上のキャリバーを生産しました。1860 年代後半には最初のカレンダーキャリバーが開発され、この画期的な出来事は、アーカイブに保存されているコンプリートカレンダー表示を備えた 1868 年のムーブメントによって裏付けられています。多くのモデルに複雑機構が搭載され、チャイムキャリバー 99 個（うちミニッツリピーター 66 個）、クロノグラフ 128 種類、クロノグラフとリピーター機能をひとつの時計に統合したキャリバー 33 個、極薄キャリバー 8 個、そして 8 日間パワーリザーブを備えたキャリバー 1 個が製作されました。1890 年代、マニユファクチュールは初のグランド・コンプリケーション キャリバーを開発し、三大複雑機構であるパーペチュアルカレンダー、クロノグラフ、ミニッツリピーターを統合しました。

II - 20 世紀～21 世紀：革新を通じたあくなき精度への追求

かつては秘境、いまでは永遠となったジュウ渓谷では、熟練が想像力を育み、想像力が発明を生み出しました。複雑機構を搭載したタイムピースにおけるジャガー・ルクルトの専門技術は、この地域の時計づくりの伝統に深く影響を与え、ジュウ渓谷を複雑機構の発祥の地として確立しました。他の多くのスイス時計メーカーが自社作品に採用を熱望するジャガー・ルクルトのキャリバーは、グランドメゾンが「ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™」として不朽の評判を得る礎となりました。

クロノメトリー：品質と革新の証

1895 CHRONOMETRE DE TORPILLEUR Precision at sea, certified chronometre (± 4s / day) for longitude calculation	1949 MARK XI PILOT WATCH Precision in the skies, certified chronometre (± 4s / day), anti- magnetic, hacking second	1958 GEOPHYSIC Precision in exploration, certified chronometre, anti- magnetic, shock resistant	1964 GEOMATIC Independent chronometre certification, civilian use	1992 MASTER CONTROL 1,000 HOUR The reference: first in-house certification, testing fully casual watch model for 6 weeks	2026 MASTER CONTROL CHRONOMETRE New standard with double certification: COSC certified, HPG certified
--	--	---	--	--	---

クロノメトリーは、精度を追求するジャガー・ルクルトの核心をなしています。19 世紀初頭の時点で、ルクルト社はクロノメーター認定の懐中時計を製造しており、単純な機構から複雑な機構に至るまで、あらゆる精度を極めていました。1890 年、マニユファクチュールはクロノメーター認定のグランド・コンプリケーションで究極の挑戦に挑みました。マリンクロノメーターから、パイロットウォッチやジオフィジックに至るまで、優れた精度が、海、空、陸の冒険家を支えました。1992 年、新たなマスター・コントロール コレクションをフラッグシップとして、グランドメゾンは新たな基



準となるテスト工程「1000 時間コントロール」を確立。これはムーブメントだけでなく、ケーシング後の時計全体の精度も検査されるものです。

マニファクチュールの絶え間ない革新のもと、新作マスター・コントロール・クロノメーターでは、新しい品質保証の証である「HPG」が導入されます。これは「高精度保証（High Precision Guaranteed）」を意味しており、洗練された美しい仕上げだけでなく、タイムピースの優れた精度も保証します。このジャガー・ルクルトの認証は、さらに厳格なプロトコルによって達成されています。特許出願中のこのプロトコルは、ケーシング後の時計を厳密にテストし、時計の日常的な使用を再現するとともに、日常使用における 4 つの重要な要素（高度、衝撃、姿勢差、温度）に対する性能を評価します。これらの多様な条件を統合することで、この手法は時計の複雑な機構が理想的な環境下だけでなく、着用者の生活全般にわたって最適なクロノメーター精度を維持することを保証します。この新たなテストの精度を実証するため、すべてのマスター・コントロール・クロノメーターは、HPG 認証だけでなく、「クロノメーター」という名称を使用するために必須である、信頼性の高い COSC 認証も取得しています。

トゥールビヨン：精度を追求する機械技術の偉業

1801 INVENTION OF THE TOURBILLON Patented by Abraham-Louis Breguet	1946 POCKET WATCH TOURBILLON First tourbillon created for chronometry competitions, certified > 1s / day	1993 REVERSO TOURBILLON The first wristwatch tourbillon, COSC standard	2009 CALIBRE 978 AWARD-WINNING In the first modern chronometry competition, a demanding 45 day trial	2014 CALIBRE 985 Cylindrical flying tourbillon to enhance Isochronism	2026 MASTER GRANDE TRADITION TOURBILLON JUMPING DATE A new movement architecture for Calibre 938
---	--	---	---	--	---

テンプとヒゲゼンマイで構成される調速機構は、機械式時計のムーブメントの心臓の鼓動です。ヒゲゼンマイの伸縮によってコントロールされる心臓の鼓動の規則性（等時性と呼ばれる）は、正確な計時にとって非常に重要なものです。等時性の天敵のひとつは、重力が調速機構に及ぼす影響です。数十年にわたり、ジャガー・ルクルトはこの分野に多大な研究を注ぎ込んできました。その一例であるトゥールビヨンは、ケージ内でテンプを回転させることで重力による影響を補正します。クロノメーターコンクールへの参加を通じて、この機構の価値を証明するために開発されたジャガー・ルクルト初のトゥールビヨンキャリバーは、1946 年のコンクールで 1 日あたりわずか±1 秒の誤差という精度で優勝を果たしました。それ以来、マニファクチュールは調速機構へのアプローチを絶えず洗練させ、クロノメーター性能の向上を目的とした数々の技術革新を開発してきました。ジャガー・ルクルトが追求する計時の精度の高まりは、トゥールビヨンケージの構造とヒゲゼンマイの形状における数々の発明にもつながっています。ジャガー・ルクルトが特許を取得した S 字型ヒゲゼンマイは、外側のコイルが上向きかつ内側に湾曲する構造を採用しており、特にレベルソに搭載された超薄型トゥールビヨンで、精度と安定性を大幅に向上させています。さらに、マニファクチュールは円筒形、球形、半球形といった立体のヒゲゼンマイを開発しました。これらは均一に伸縮するため、より同心円状で安定したテンプ振動を実現し、等時性を向上させるとともに、様々な形の調速機構に完璧に適応します。



ジャガー・ルクルトのトゥールビヨンキャリバーの中でも、キャリバー978 は画期的な成果として際立っています。2009 年には、スイスのル・ロックルにある国際時計博物館の創立 50 周年を記念して開催された、45 日間の過酷な試験が行われる近代初のクロノメーターコンクールで優勝を果たしました。この厳格な評価は、トゥールビヨン脱進機の本来の目的の正当性と、マニファクチュールの職人技による卓越した品質と精度を明確に実証しました。発表当時、キャリバー978 には、遊び心がありながらも考え抜かれた新たな種類の「ジャンピング」デイト機能も導入されました。日付はダイヤル外周に示され、トゥールビヨン開口部の両側に位置する 15 と 16 は、ほぼ 90 度の角度を隔てて配置されています。毎月 15 日の深夜 0 時を起点に、日付針が 16 日へとなめらかに移動し、トゥールビヨンの視認性を確保します。再構築されたムーブメント構造を備えた最新のキャリバー978 は、マスター・グランド・トラディション・トゥールビヨン・ジャンピングデイトに搭載されています。新たな 42mm の 18K ピンクゴールド製ケースに収められ、このキャリバーの輝かしい歴史への活気に満ちた優雅なオマージュとして、ダイヤルデザインが刷新され、より洗練された高級時計づくりの仕上げが施されています。

多軸トゥールビヨン：象徴的な発明

2004 GYROTOURBILLON 1 <i>The first multiple-axis tourbillon</i>	2008 GYROTOURBILLON 2 <i>New construction to fit the watch's historic case</i>	2013 GYROTOURBILLON 3 <i>The first flying Gyrotourbillon</i>	2016 GYROTOURBILLON 4 <i>Full flying status, becoming the fastest Gyrotourbillon to date</i>	2019 GYROTOURBILLON 5 <i>Minutestation process, integrating the Gyrotourbillon with constant force mechanism</i>	2026 MASTER HYBRIS INVENTIVA GYROTOURBILLON A STRATOSPHERE <i>Triple-axis tourbillon achieving 98 per cent of all profiles</i>
---	--	--	--	--	--

腕時計が個人用時計として普及する中、時計職人は重力が精度に与える影響を抑えるため、多軸トゥールビヨンが単軸トゥールビヨンよりもはるかに効果的であることを理解していました。2004 年、ジャガー・ルクルトは初のジャイロトゥールビヨンを発表し、画期的な多軸機構の発明によるシリーズが誕生しました。この革新的な 2 軸トゥールビヨンは、水平位置の振動システムが決して静止しないよう緻密に設計され、ジャガー・ルクルトの多軸トゥールビヨンにおける先駆的役割を確固たるものにしました。この基礎的な成果を礎に、その後に続くジャイロトゥールビヨンの各世代は精度と芸術性の限界を押し広げてきました。第 2 世代は新たな構造が際立ち、象徴的なレベルソのケースにぴったり合うよう細心の注意を払って設計されています。第 3 世代では初のフライング・ジャイロトゥールビヨンが誕生し、球状ヒゲゼンマイという革新を実現しました。第 4 世代はフルフライング機構を達成し、これまでで最速のジャイロトゥールビヨンとなりました。第 5 世代は小型化の偉業を体現し、ジャイロトゥールビヨンとコンスタントフォース機構が調和するように統合されています。

トゥールビヨン機構において約 80 年間蓄積された専門技術を体現するマスター・ハイブリス・インベンティバ・ジャイロトゥールビヨン・ストラトスフェア（キャリバー178）は、特許出願済みの技術により、さらに一歩進んだ進化を遂げました。トゥールビヨンの中にトゥールビヨンを、さらにその中にトゥールビヨンが配置されています。この 3 軸トゥールビヨンの運動学は、時計の精度に対



する重力の影響を相殺するため、あらゆる姿勢差の 98%で精度を維持します。等時性を最適化するため、ジャイロトゥールビヨン・ストラトスフェアにはシリンダー形ヒゲゼンマイを採用。この形状は振幅（テンプの前後の振動）や位置、パワーリザーブに関わらず、どの位置でも同心円状に振動し、摩擦を最小限に抑えるセラミック製ボールベアリングで駆動します。3 つのチタン製トゥールビヨンケージは、X 軸、Y 軸、Z 軸に沿ってそれぞれ異なる速度で回転。内側ケージは 20 秒、中央ケージ（基準ケージ）は 60 秒、外側ケージは 90 秒で回転し、これによりあらゆる姿勢差が常にカバーされます。現在市場にある他のどのトゥールビヨンも、これほど広範囲な姿勢差をカバーしておらず、重力が振動子の精度に悪影響を及ぼす可能性をほぼ排除しています。

複雑機構の追加：精度へのさらなる挑戦

2007 DUOMETRE CONCEPT The mechanism features two barrels and two independent gear trains linked to a single escapement.	2009 HYBRIS MECHANICA GRANDE SONNERIE Integrating a Westminster chime, a flying tourbillon, and a retrograde perpetual calendar.	2010 CREATION OF CALIBRE 945 Integrating a minute repeater with an orbital flying tourbillon and celestial map.	2014 INVENTION OF CALIBRE 362 The world's thinnest automatic minute-repeater tourbillon.	2026 MASTER HYBRIS MECHANICA ULTRA THIN MINUTE REPEATER TOURBILLON The first Hybrid-Mechanica minute-repeater for Calibre 362.
---	--	---	--	--

時計のムーブメントに、時、分、秒以外の複雑機構を追加することは、その作動に追加のエネルギーを必要とするため、本質的に計時精度に課題をもたらすことになります。しかし、精度における基本要件は、香箱から調速機構に供給されるパワーが完全に安定していることです。複雑機構は、主に二種類に区別することができます。日付表示やムーンフェイズなどの常時表示型複雑機構と、クロノグラフやミニッツリピーターなどのオンデマンド型複雑機構です。オンデマンド型複雑機構は、断続的に膨大なエネルギーを必要とするため、特に大きな課題を内包しています。作動時に一時的に多大なエネルギーを消費するため、調速機構への安定したエネルギー供給を妨げ、時計の精度と等時性が損なわれる可能性があります。つまり、精度に影響を与えることなくエネルギーの急増を管理するためには、専用のエネルギー源や高度なクラッチ機構など、より複雑で機械的な解決策が必要となります。

この難問を解決するため、マニファクチュールのエンジニアたちは数十年にわたり様々な解決策を考案し、2007年にデュオメトルシステムの発明に至りました。この構造は、2つの香箱を備え、それぞれが独立した輪列を駆動しながらも、どちらも1つの調速機構に接続されており、1つの輪列が時刻表示を、もう1つがその他のすべての追加機能を動作させています。デュオメトルのコンセプトは、複雑機構の動作が計時精度を損なわないようにすることで、時計の複雑化をさらに推し進め、精度を確かなものとする道を切り開きました。

要求の厳しい複雑機構の中でも、ミニッツリピーターはひときわ際立ったものです。常にキャリバー内の独立した機構であり、多数の部品がゴングを力強く打撃するために膨大なエネルギーを必要としています。ジャガー・ルクルトの時計職人は、19世紀半ば以来、あらゆる形態の機構を作り上げ、その精度だけでなく音色の質と純度を高める画期的な革新をもたらしてきました。



2026 年、ジャガー・ルクルトはハイコンプリケーション キャリバー362 を再解釈した、**マスター・ハイブリス・メカニカ・ウルTRASリム・ミニッツリピーター・トゥールビヨン**を発表します。

2014 年の発表当時、画期的な発明と革新的な美学を体現したキャリバー362 は、ジャガー・ルクルトの卓越した遺産を 2 つの重要な分野で継承しています。それはチャイム機構と精密な時計技術。完全なフライングトゥールビヨンに、特許を取得した S 字型ヒゲゼンマイを組み合わせ、等時性と調速機構の精度を保証しています。18K5N ピンクゴールド製ケースに収められ、厚さわずか 8.25mm。機構全体が眺められるよう、完全スケルトン加工のキャリバーとサファイアブリッジを採用し、装飾を削ぎ落としたダイヤルがムーブメントのローターを囲むオープンワークのリングを形成するデザインです。

高さわずか 4mm の自動巻キャリバーに、フライングトゥールビヨンと美しい響きのミニッツリピーターを搭載。厚さ 8.25mm のケースに収められ、世界で最も薄い自動巻ミニッツリピータートゥールビヨンを備えたタイムピースとしての地位を確立しています。

独特な土地の景観と気候によって形作られた人々の個性から、技術発展の時代に育まれた発明の精神が成長を遂げ、それは精度の追求と習得というひとつの目的を生み出しました。「発明の溪谷」が紡ぐのは、創業の地に今も深く根ざすメゾンの 193 年にわたるインスピレーションに満ちた物語。それは、機械式時計づくりの尊い遺産を守りつつ、完璧な計時を追求する中で革新を続けるエンジニア、時計職人、デザイナーたちの物語でもあります。

「発明の溪谷」について

ジャガー・ルクルトの原点であり、今日まで本拠地であり続けるジュウ溪谷を称える「発明の溪谷」は、600 年前にヨーロッパ各地からの難民たちが安全な避難所を見出した、この人里離れた谷へのオマージュです。過酷な環境と厳しい冬の寒さのなか、初期の住民たちには、生き延びるために立ち直る力、忍耐、そして創意工夫を育むことが求められました。その 10 世代後となる 19 世紀初頭、アントワヌ・ルクルトは、独学で時計作りを学び、時計の部品の測定と切削が前例のない精度で行える機械の発明に着手し、現代の時計製造業の礎を築きました。1833 年にルクルト最初の時計づくり工房が創業して以来、この創意工夫の精神と精度への追求は、ジャガー・ルクルトを決定づけるものであり続けています。一連の発明と技術的進歩により、多くの主要メーカーが自社時計用に求めるキャリバーが誕生しました。これによりジャガー・ルクルトは「ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™」として認められるようになりました。これまでに 430 件以上の特許を取得した実績が示すように、継続的な発明は、グランドメゾンの精度への追求を今日に至るまで育み続け、さらに未来へと導いています。



ジャガー・ルクルト - ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™

1833 年以来、ジャガー・ルクルトは、革新性と創造性への抑えきれない渴望に導かれ、故郷ジュウ溪谷の平穏な自然環境からインスピレーションを得て、複雑機構への熟練した技術とその精度で際立った存在となっています。ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™として知られるマニファクチュールは、1,400 を超えるキャリバーの制作と 430 以上の特許を通して、その絶え間ない革新の精神を表現してきました。ジャガー・ルクルトの時計職人たちは、190 年以上にわたる蓄積された専門知識を駆使して、最先端の精密なメカニズムの設計、製造、仕上げ、装飾を行い、何世紀にもわたるノウハウと情熱を融合させ、過去と未来をつないでいます。時代を超え、常に時と共にあります。180 種類もの専門技術がひとつ屋根の下に集結したマニファクチュールは、その技巧に、デザインの美しさと独特で控え目な洗練とを組み合わせ、高級時計に息吹を吹き込んでいます。